

令和4年度 柳町地域ケアプラザPDCAシート_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

令和3年度も新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、地域活動は自粛や縮小を余儀なくされました。一方で、コロナ禍が長引く中、新たな『人とのつながり』を模索する動きも活発化し、地域の中でもオンラインやリモートといった通信ツールを用いた地域交流に多くの興味・関心が注がれました。また、学生による空き家活用の取り組みなど新たに地域で芽生えてきた活動もありました。令和4年度も感染予防に関する情報発信を積極的に行いながらも、地域の方々が健康で安心して社会生活が送れるよう、地域の方々と共に地域づくりに努めてまいります。

今年度の重点的な取組

新規
継続

—具体的な取組内容—

- | | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との関わりを通して、小さなことでも相談していただけるよう丁寧に関係づくりを行う。 ・自ら支援を求めることが難しい方、複合的な問題から生きづらさを抱えているケースについては、関係機関と連携を取りながら介入のタイミングを図って支援していく。 ・昨年度実施した民生委員・児童委員へのアンケートの結果を報告し、支援に活かせるようにしていく。 |
| <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援者の協力を得ながら支援できるよう、地域支援者へのアプローチを心がけ、行政と共に課題解決できるようにする。 ・他部署の役割を理解しながら連携に努める。 |
| <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域で行われているレコード鑑賞会の周知や後継者の支援を5職種で支援する。 ・オンラインを利用し、コロナ禍であっても集まりを続けていけるようにする。 ・居場所づくりを考えている住民に、他地域の居場所についての情報を共有する。 |
| <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民に対し、要介護状態となる前から、介護予防についての講座などを通して伝えていく。 ・生活支援体制整備事業と連携し、サービスBやボランティア団体の情報収集を行い、ケアプランへ位置づけることができるようにする。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <ul style="list-style-type: none"> ・中学生版ワークシートを活用し、地域への理解を深めてもらう。 ・小・中学生対象に認知症サポーター養成講座を開催する。 |

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

令和4年度も感染症対策を講じながら、リモート活用も含めながら、安定した事業の運営に努めました。特に、支え合いのある地域づくりでは、もりのお茶の間やレコード鑑賞会等、地域活動の後方支援を行い、地域の皆様との信頼関係づくりに取り組みました。昨年度実施した民生委員・児童委員アンケートの集計結果については、民生委員・児童委員の連絡会で報告し、今後も地域住民同士のつながりの強化に向けて相互に連携し支援していく旨を確認しました。地域の方々とのつながりから、困った時の相談先として相談をいただけるようになってきています。また、地域住民の皆様が無理なく介護予防につながるよう、フレイル予防講座や口腔ケア講座等を開催し、介護予防の重要性について周知しました。一方、生活支援コーディネーターが年度途中から不在となり、サービスBやハマボノ等の情報収集等は滞りました。しかし、他職種の職員が協力し合いボランティア団体交流会等に出席し情報収集に努め、職員間で補い対応をしています。

区からのコメント

コロナ禍4年目となり、様々な活動制限が緩和されつつある状況の中、地域の声を受け止めつつ活動を再開しようとしてご尽力された1年でした。実際にお菓子作り等の飲食を含む活動を再開したことで、地域のつながりが深まったことと思います。また、登録団体を余暇支援事業にボランティアとしてつなぐ取組は、コロナ禍における貴重なコミュニケーションの場になっただけでなく、障害理解や事業の人材確保にもつながっています。日常の個別相談等を通して民生委員をはじめとした地域支援者とも密に連携を図っていただいております。昨年度実施したアンケート結果をもとに、更なる地域課題の発掘、支援につながるような連携を期待しております。新規ケアプラザ開設に伴うエリア変更にも早々に対応していただいておりますが、引き続き丁寧な地域のアセスメントとニーズに即した地域支援、個別支援をよろしく願います。